

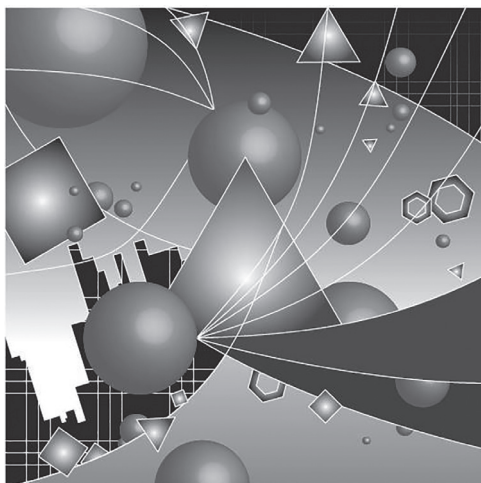
「技能と技術」誌表紙デザイン 最優秀賞受賞者インタビュー

「技能と技術」誌 編集事務局

1. はじめに

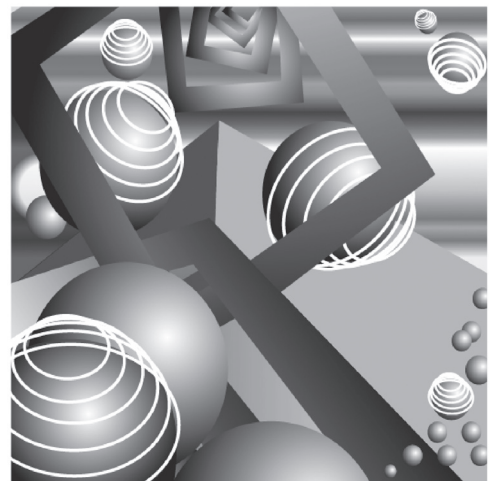
本誌では、例年、本誌に対する意識の高揚とデザイン教育の振興を目的とし表紙デザインコンテストを開催しています。本コンテストは、全国の職業能力開発施設のデザイン系学科の方を対象とし公募しております。そして、応募いただいた作品の中から優秀な作品を選出し、その中で「最も優秀」と評価された作品が、翌年に発行される本誌の表紙を飾ることになります。

今年度の表紙デザイン選考会（令和元年10月開催）では、神奈川県立産業技術短期大学校 産業デザイン科の鈴木天也さんの作品が最優秀賞に選出され、本誌第4号（令和元年12月発行）にてお知らせしたところです。



令和2年「技能と技術」誌表紙デザイン
最優秀賞作品

また、同校から鈴木由隆さんの作品も佳作として選出しています。



令和2年「技能と技術」誌表紙デザイン
佳作作品

同校では、平成27年にも最優秀賞を受賞されていて、毎年、質の高い作品を応募していただいています。

本誌編集事務局では、最優秀賞作品を生み出したコツを知るため、1月某日、晴天に恵まれた中、同校を訪問し、授賞式と鈴木天也さんへのインタビューを行いましたので報告します。

2. 神奈川県立産業技術短期大学校 産業デザイン科

同校は、地域社会および経済の発展に寄与することを目的に、「高い技能と技術および学識を持つ、

創造性豊かな実践技術者」の育成を理念とし、県立の短期大学校として平成7年に設立されました。産業の基盤となる「生産技術科」「制御技術科」「電子技術科」「産業デザイン科」「情報技術科」の5科で構成されています。

企業からも高い評価を得ているため、平成31年3月卒業生では全体で100%の高い就職実績を残されており、卒業生は製造分野のリーダーとして、神奈川県下を中心に活躍しています。



神奈川県立産業技術短期大学校の外観

鈴木天也さんが学んでいる産業デザイン科は、基礎デザインを習得してから、グラフィックデザイン・プロダクトデザイン・スペースデザインの3分野に分かれて、企画・設計から制作までのデザインワークを学びます。しなやかな感性と豊かな創造力を持ち、斬新で効果的なデザインの提案ができるデザイン・エンジニアを目指しています。



産業デザイン科で制作された作品

3. 受賞者インタビュー

今年度の表紙デザイン募集には全国から136点の応募があり、厳正なる審査の結果、鈴木天也さんの作品が最優秀賞に選出されました。なお、同校からは鈴木由隆さんの作品も佳作として選出されています。

訪問当日には、ご多用の中、松永校長をはじめ、金子産業技術課長、産業デザイン科担当の齋藤先生にも出席いただき、校長室をお借りしまして、ささやかながら授賞式を行わせていただきました。



右より松永校長、最優秀賞の鈴木天也さん、佳作の鈴木由隆さん

その後、応接室をお借りして、鈴木天也さんにインタビューを行いました。緊張しながらも、作品について熱く話していただきましたのでご紹介します。

ー産業デザイン科に入ったきっかけは？

高校時代は、総合産業科に所属し、産業に関わるものを手を動かして作ったり、頭を使ってものを考えたり、プロジェクトを管理する側の心得など幅広い範囲を学んだ。デザイナー一本では学んでいないが、広い範囲を学んだ中でデザインに興味を持ったのと、友達からの紹介で産業デザイン科を選びました。

ー最優秀賞に選出されたと聞いてどのように感じましたか？

正直に言うと最優秀賞と聞いてビックリしたのと、一緒に学んでいる友達で鈴木がもう一人いるので、その友達と間違えているのではないかと思いました。また、私がこれまで学んできたことがしっかり身に付いていると評価されたことに対しすごくうれしかったです。

ー友達と家族の反応はどうでしたか？

よく話す友達からは、「すごいね」と言われました。

父や母は、純粋に喜んでくれました。弟からは、誰かと間違えてないと言われ、全然信じてくれなかったが、その後から「おめでとう」と言われました。

ー「技能と技術」誌はご存知でしたか？

「技能と技術」誌表紙デザインコンクールに応募する前は、知りませんでした。昨年の4月に表紙デザイン募集案内のチラシを見て、「技能と技術」誌を初めて見ました。また、デザインの方向性を決めるため、これまでどのような作品が採用されてきたのかを確認してからデザインを制作しました。

クライアントと直接話ししてデザインを制作していくことが多いが、表紙デザインコンクールでは文章でこういうデザインを制作してほしいという限られた情報だけだったので、これまでどのような作品が採用されてきたのかを確認しました。

ーコンセプトと表紙デザインは、どのように制作しましたか？

「技能と技術」という言葉から「未来」がイメージできたので「未来」をキーワードにしてコンセプトの制作を始めました。幼い時に平面構成のコンクールで入賞したことがあって、その時もあまり深く考えずに自分のイメージで最初紙に書き、そこから修正しながら制作しました。

今回の作品でも、中央の三角形と球体は、最初のイメージで出てきました。そこからオブジェクトの

分布を考えながら、追加していったり動かしたりして試行錯誤しながら制作しました。

ー中央の三角形について審査員からピラミッドを連想させるとのコメントがありましたが、ピラミッドを連想して制作したのでしょうか？

深く意味を付けず細かく造形しない形で三角形をそのまま置きました。あまり作り手側の考えを押し付けるようなものは、デザインとして、どうなんだろうと思っています。幼い時から、作り手側の考えが前面に出ているのが苦手で、そういう形にならないようにしているため、目立つように置いているが深い意味は付けずに三角形を置いています。

作品の左下にある建物については、物として何が書いているのかが分かるように制作しました。基本的に幾何学図形のような図形のままで書いてある部分には、あまり作り手側の意図は載せないように調整しました。

ー中央の三角形については、描き方によっては三角錐のようにできますが、三角形を中央に持ってきた意図はありますか？

先ほども言ったとおりに、作り手側の意図を押し付けないことを考えながら制作したので、向きによっては正面から見た三角錐にも見えたり、円錐にも見えたり、三角柱を真上から見た形にもなるので、受けて側の印象次第で表情を変えたいのをイメージして制作しました。

ーデザインを制作するときは、どのような過程で制作しましたか？

小さいサイズで何となくのイメージをまとめ、サムネイルを並べて、私の中で良いなと思ったものを2~3個選んで、周囲の人からも私の中で良いなと思ったもの以外で2~3個選んでもらって、それを仕様の原寸サイズで書いていきました。応募できるラインまで出来たら周囲の人から作品について話を聞いて、最終的に2案に絞った。2案とも中央に三角形と球体は置いていて、その2案をイラストレーターで作りしました。最終的に出来が良かった作品で応募

しました。

—2案から出来が良かった作品を決めるにあたり、ご自身で決めたのですか？

私の他に、友達とデザインに携わっている次男から意見を聞いて応募作品を決めました。

—作品の制作期間は？

4月頭からアイデアワークを始めて夏休み前には完成したので4か月程度かかりました。

—一番時間がかかったところはどこですか？

イメージが固まれば、どのツールを使えば表現できるといったのは苦労しないのですが、アイデアワークに時間がかかりました。

—今、卒業制作に取り組んでいるということですが、どのようなものを制作しています？

Illustratorの使い方を簡単に学べるテキストを作成しています。

IllustratorとPhotoshopの使い方を事細かにまとめたものと私が学んだ時に分かりづらかった部分をまとめたものがあると良いなと思いました。作業時間の関係やどちらも自由度の高いソフトウェアなので、併せてPhotoshopの方も取り組むのが難しいためIllustratorのみ取り組んでいます。

—卒業制作でデザインの制作物ではなく、Illustratorのテキストに取り組んだのはどうしてですか？

作りたいものはいっぱいあるが、それは趣味の時間で作っても良いと思っています。卒業制作物は、学校に残るものなので、これから入学してくる学生に役立つ内容の方が良いかと考えて、私がこれまで学んできた中で苦労したことを考えたときにIllustratorのテキストを作成しようと思いました。

—最後に今後応募されるみなさんに向けて、一言お願いします。

私は、今までの作品を見てデザインの方向性を定めていったのですが、あくまでもその方法の方が取

り組みやすかったので、同じ方法で取り組みやすい人は、取り組んでもらっても良いし、何も見ない方が自分の考えが出てくる人は、その方法でも良いと思うが、どちらにしても自分が思ったことを出していければ良いと思います。

自分の考えをIllustratorなどのツールで表現していくのは難しいですが、これから応募される方は頑張ってください。



インタビューに答える鈴木さん

4. おわりに

実習中にもかかわらずインタビューを受けていただきありがとうございました。インタビューを通して鈴木天也さんの作品に対する熱い思いを感じることができました。卒業後の就職先でもご活躍を期待しております。

なお、今年度の最優秀賞の作品については、審査員からポスターとしても優れているとのコメントをいただいたため、次年度開催予定の職業訓練教材コンクールのポスターにも採用されます。